

高等学校公民科「倫理」「公共」に関する教員の指導力向上

I 団体の概要

当研究会は、東京都の高等学校公民科の教員を中心に、その他の教科や校種の教員、大学生、大学院生、他県の教員等にも開かれた、自主的に集い主体的に研究を行う団体である。毎年6月頃に総会を行い前年度の報告や本年度の計画、予算、事務員等の人事等について参加者から承認を得ている。なお、事務員を随時募集している。

II 研究の目的

当研究会は、「倫理」や「公共」などの学習内容の研究とそれらの指導方法、授業方法、評価方法の研究、それに参加者同士での課題や研究成果の共有、次代の教員への技能継承等を主な目的としている。

III 研究の方法

1 研究例会（年3回1、2、3学期に開催）

公開授業や研究発表とその協議、講演等を企画・実施し、指導内容の知見を広げ、授業技術向上に活かす。教科書、資料集の比較検討、哲学対話の研修、観点別評価の実践研究など、より多くの参加者を見込んだ研究例会を実施する。

2 研究協議会（年2回夏季及び冬季に開催）

原典訳書、哲学・倫理分野を主とする入門書・研究書の輪読を通じて指導内容に関する知見を深める。

3 出版物に向けての「公共」「倫理」の研究

『新科目「公共」「公共の扉」をひらく授業事例集』の改訂版の発行に向けて研究する。

4 事務局と連携した研究部体制の再構築

研究例会や研究協議会の開催にあたっては、事務局との連携を図りつつ、研究部内で担当と副担当をそれぞれ充て、協力体制をつくり、研究活動を持続発展させていく。

5 全国組織、他教育研究団体、各大学等との交流

今後の研究活動の充実を図り、研究団体としての社会への発信力を高めるためにも、会員相互の情報共有を進め、関連教育研究団体・学会・大学等との意思疎通を密にして交流を深める。

6 研究紀要の発行

1年間の研究活動とその成果、課題等をまとめ、発表する。

IV 研究の内容

1 研究授業

2学期：3年生選択「倫理」の「マルクス思想から現代社会の諸課題を考える」授業

2 講演

1学期：演題「ケアの倫理から法における人間像を問い直す」
演題「高等学校公民分野の教育をめぐる『総合』と『分化』の相克」

夏季研究協議会：演題「大学の社会科・公民科教育法が抱える重たい課題」

2学期：演題「マルクス研究から現代社会を読む - 資本主義の終焉と未来について -」



講演のようす

冬季研究協議会：演題「「倫理」「公共」教育における日本思想史」
3学期（詳細は未定）



3 読書会

夏季研究協議会：
課題図書 浅田彰『構造と力』

4 実践発表

夏季研究協議会：公共の扉を生かす授業実践 事例「どうして人間は働くのだろうか？」

冬季研究協議会：「日本思想をどう教えるか」

V 主な成果

講演「マルクス研究から現代社会を読む—資本主義の終焉と未来について」の聴講を通して、私たちの置かれている資本主義社会の現状と限界、危機などについて俯瞰でき、今後の社会のあり方について考察することができた。例えば、先進国においてしばしば見られる過剰生産について、それなら壊せばいいという創造的破壊の考え方に繋がるという指摘や、先進国は金融軸を移す傾向があるが産業をなくしたら駄目になるという指摘、ドルという機軸通貨が揺らぐ現状などにどう向き合えばいいのかという問い。このような指摘や問いはまさに生徒たちとも共有できる切実な問いかけであり、重要な問いかけを新たに得ることができた。

<令和6年度連絡先>

団体名		東京都高等学校「倫理」「公共」研究会	
代表者	所属	東京都立墨田川高等学校	
	職氏名	統括校長 渡邊 範道	
	連絡先	03 - 3611 - 2125	
事務局	所属	東京都立杉並高等学校	
	職氏名	主任教諭 伊藤 昌彦	
	連絡先	03 - 3391 - 6530	
団体ホームページ	URL	https://torinken.hatenablog.com/	二次元コード
			